

令和3年度山梨県高等学校駅伝競走大会
兼男子第72回全国・第74回関東・女子第33回全国・第30回関東予選会
新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル

山梨県高体連陸上競技専門部

【1】 大会を実施するにあたっての感染症対策

- ① 3密を回避する配慮を徹底して行う。
- ② 競技者、関係者の自覚（自ら自分の身を守り、他人に感染させない）を促す指導をする。
- ③ 部活動再開ガイドラインと施設利用に関するガイドラインを遵守する。
- ④ 感染者が発生した場合の濃厚接触者の特定ができる体制を整備する。

【2】 具体的な対策

① 大会への移動方法

西湖畔への交通手段については感染リスクの少ない保護者送迎等による現地集合をお願いしたい。

② 各部の集合形態

「ソーシャルディスタンス」「マスク着用」「手指消毒、手洗い」の徹底。

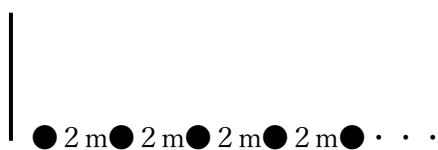
③ 開会式・閉会式

- 感染症対策上のルールとマナーを伝える意味からも実施する。
- 開会式の参加人数は各校男女別に2名までとし、人数を絞る。
- 閉会式の参加は、男女6位入賞校（登録メンバー）と男女各区分賞者とし、人数を絞る。
- 事前にマーカー等で示された位置に1～2mの間隔を保って整列。
- 内容は簡素化して行い、15分以内で終了。
- 無観客開閉会式とする。

④ 招集について

- 選手の密集を避けるため、スタートと各中継所の招集については、本人のみ現地集合とする。
時間についてはプログラムの指示に従うこと。（※付き添いは招集に行かない。）

例) スタート・各中継所



スタートライン付近

プログラム記載通り指定された時間にスタート・各中継所に集合し、順次最終コールをする。

- 各中継所の役員は本部と連携し、選手のDNS等を連絡する。

⑤ 服装・携行品について

- 審判員は、マスクは全員が着用、フェイスシールド・ビニール手袋・軍手（推奨）
- 選手は、マスク着用（選手はウォーミングアップ・ダウン時と競技時は外してよいが、待機中は着用する）
- タオルの共用やペットボトル等の飲み回しは厳禁とする。
- 雨天時の傘やカッパ等については、全ての選手が各自の責任で用意し、体調管理をきちんと行う。

⑥ 無観客大会の対策

- 今大会は、無観客大会とする。
- 各校顧問は、必ず保護者やOBOGに【無観客大会】の連絡を周知徹底しておくこと。
- スタートや各中継所に選手・付添が集団でいることや声を出しての応援は禁止とする。
- 役員が巡回し、人が密集することがないように徹底する。
- コースでの応援は禁止、「ソーシャルディスタンス」「マスク着用」の徹底。
- マスクをしていない生徒が見受けられた場合は、注意するとともに役員が指導する。

⑦ 各学校の対策

- 各学校でテントやシートでベンチを作って構わないが、平素よりもスペースを広めに取ること、ベンチ内で密集しないよう徹底する。顧問が指導を徹底する。
- 大会中、部員同士での握手やハイタッチ、ハグ等の行為がないよう事前に各校で指導を行う。
- 当日出たゴミについては各校で責任を持って持ち帰る。

⑧ アップ・ダウンについて

- 集団でのウォーミングアップやダウン・練習等は禁止とし、個別に距離を保って活動を行う。

⑨ トイレの使用について

- 不特定多数が接触するので便座、スイッチ、洗浄レバー等は、各自で消毒を行う
- トイレの蓋を閉めて汚物を流すようにする。
- 各トイレ入口に消毒設備を設置して、利用者の手指消毒を促す
- しっかりと石鹸を泡立てて手洗い（30秒以上）を行う。
- 各自で用意したタオル又は使い捨てのペーパータオルを使用する。
- 温風乾燥機は使用しない。

⑩ 消毒対策

- 各学校で消毒液を持参し、部員が西湖へ来た際と帰る際、また、ベンチ等に常備しておき頻繁な消毒を徹底する。
- 必要な場所に消毒液を設置し、選手・競技役員等の消毒を徹底し、密にならない工夫を施す。
- スタート前に手を消毒し、終了後にまた手を消毒するという方法を取る。競技後手洗い等でのタオルの使い廻しは厳禁とする。

⑪ 健康チェック・参加要件

○大会当日までの JAAF 健康チェック表（陸協 HP にも掲載）を家庭の責任のもと作成し、本人が健康であることを確認した上で保護者に参加の承諾をしていただく。症状がある場合は顧問に報告し、大会への参加を自粛していただく。当日朝の顧問会議時に全員の参加承諾書及び健康チェック表を回収する。（各校の指導者も同時に提出）

※競技に参加する選手だけでなく、マネージャーや補助員等、競技に参加しない部員についても、大会に来る折には参加承諾書と健康チェック表を提出しなければならない。また、大会4日前から当日までの間に該当するに○がある場合は出場・観戦を許可しない。各校指導者・審判員・報道関係者についても生徒と同様の体調管理チェック表を提出し、条件を満たさなければ大会の参加を許可しない。今大会は、無観客大会とする。

○大会後も大会に参加した人全員の体調チェックを2週間続け、症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの保健所、医師会、診療所等に報告する。症状には個人差があるので、強い症状と思う場合にはすぐに報告すること。保健所、医師会、診療所等に相談するとともに、各校顧問に必ず連絡する。顧問は委員長に連絡し、該当者の大会後のチェック表を回収して提出する

⑫ 競技運営について

○優勝校には、毎日新聞社寄贈の代表旗を授与する。2位～3位には、毎日新聞社寄贈の楯とメダルを授与する。

○男女総合6位までを入賞とし、賞状を授与する。（各区分、区分賞も表彰する）

⑬ 救急・救護体制について

○大会中、本部に医師・医務員が常駐し、大学生4名が自転車にてAEDを携帯し巡回する。

○医師の指示の下、本部に隔離室を設け、環境を整備する。

○近隣の医療機関と連携し、必要な場合はすぐに搬送できるようにする。

⑭ 報道対策について

○報道関係者についても選手・観客と同様、健康チェック表の提出を義務付ける。

○各社の人数については事前に相談していただく。

⑮ 大会中、参加者の中に感染が判明した場合の対応

○大会中に発熱等の症状を訴える者を確認した場合は、常駐の医師と相談の上、保護者に連絡し、帰宅させる。

・各校顧問は、常に責任を持って体調を確認する。

○大会参加者からクラスターと思われる感染者が発生した場合

・協議の上、大会中止もありうる。

※感染者・あるいは濃厚接触者が発生した場合、①常駐の医師と相談の上、直ちに保健所・高体連事務局、保健体育課へ連絡する。また、報告書を作成し提出する。②感染者の所属する学校や行政機関の指示に従う。③当該校顧問は、速やかに委員長に報告する。④委員長は感染者が参加した大会当日に会場にいた全ての学校と参加者（役員・審判等）に連絡する。